

## 地球温暖化に及ぼす都市化の影響

## A002-2

# 三上 岳彦 [1]

# Takehiko Mikami[1]

[1] 首都大・都市環境

[1] none

IPCC 第 4 次報告書によれば、過去 100 年間 (1906-2005 年) に地球の平均気温は 0.74℃ 上昇したが、東京都心部 (大手町) の気温は同時期に 3.1℃ も上昇している。日本に限らず、都市部の気温はヒートアイランド現象によって、地球の平均気温の上昇率を大きく上回っており、都市の気温上昇が地球の平均気温を押し上げているのではないかという指摘も一部になされている。一方 IPCC 報告書では、地球温暖化に及ぼす都市部の気温上昇の影響は無視できるとしている。都市が高温化する原因は、人工排熱の増加による都市大気加熱と都市表面の人工化による熱収支の変化にあるが、地球温暖化は大気中の二酸化炭素等の温室効果ガスの増加が主たる原因となっており、メカニズムが異なる。地球規模で見した場合、都市のヒートアイランドの直接的影響を受けるエリアの面積は無視できるほど小さいが、都市部に集中した人間活動によるエネルギー消費量と温室効果ガス排出量の増大が地球温暖化に寄与する割合は無視することはできない。講演では、地球温暖化と都市高温化の関係に関して、データを提示しながら考察したい。